

チャレンジ

旭川大学高等学校 ライセンスコースだより NO17(189) 2017.3.22

新年度に向けて 進路実現への取り組みを

1年間いろいろありましたが、何とか無事に1年間のすべてを終了することができました。まだまだ課題の多いライセンスコースですが、積み残した課題はぜひ新年度になって、また新たなクラスのスタートとともにひとつずつ克服していってほしいと思います。とりわけ、進路の課題。今年に入ってから大学・短大・専門学校の説明会が開催されたり、各企業の説明会、高犬車機による旭川大学での模擬授業等が実施されました。今年卒業した3年生は、就職・進学共に100%の内定、合格です。2年生は、この1年間は先輩や先生方の言われることを実践するだけで良かったのですが、新年度では個々が責任と自覚をもって行動し、生活することが大事です。

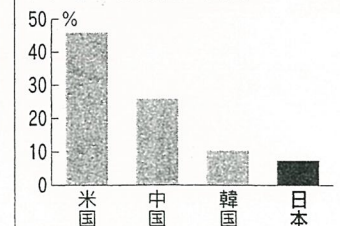
努力の成果は

今年最後の学年末試験が終ってみなさんは満足感があったでしょうか。「やるだけのことはやった」「悔いなし学習はした」と感じていますか。今年度の最終の結果が出ました。後日みなさんの家に送付されます。学年末評価を見ると2年生が低い評価になっています。春休みには、不得意教科の学習をしっかりと取り組まべきです。

春からはより高い意識と行動をもって確実に成長してほしいと願っています。



教わったことをほかの方法でもやってみる生徒の割合



(注) 国立青少年教育振興機構の資料から作成

一夜漬け、米中韓上回る

調査は2016年9月11日に行い、4カ国の高校1〜3年生計7854人が回答した。勉強の仕方を問う質問で、数学の問題を別の公式で解くなど「教わったことをほかの方法でもやってみる」と答えた生徒の割合は、7.5%だった。日本に対し米国が45.8%、中国が25.9%、韓国が10.4%だった。授業中の行動などを問う質問では、「ざんげノートを書く」という項目で「よくある」と答えた割合が79.4%と4カ国で最高。よべ一居眠りを「生徒も米中韓より高い15.0%で、比較可能な09年の調査と比べると7.9%上昇した。」「グループワークの時には積極的に参加する」は「よくある」が25.3%で、4カ国中最低だった。よく「予習、復習をする」も、米中韓より低い12.1%にとどまった。学校の授業や宿題以外に「2時間以上」勉強するとの回答は、09年より3.9%高い24.9%。平日に学校の宿題をしない生徒は12%下がって11.2%になった。同機構は「学習時間は増えていて、学習の仕方は変わっていない」と指摘する。「試験の前までにまとめて勉強する」とした生徒は69.3%で、4カ国で最も高かった。学校生活が楽しいと答えた生徒は78.8%で4カ国で最高。ただ「学習よりも学校で人間関係を築くことに重きを置いている」(同機構)。

も影響しているとの指摘もある。日本の生徒はインターネットで情報や資料を調べたり、学習ソフトなどを使って学ぶ割合が4カ国の中で最低。調査結果を分析した千葉敬愛短大の明石要一学長は「生徒の主体性を引き出すために、ICT機器の力も借りる必要がある」と話している。

始業式
4月10日
(月曜日)

実用英語技能検定
準2級合格
(2月24日)
畑中 明美 303

日本漢字能力検定
準2級合格
(3月3日)
佐藤 佑香 102

日商簿記検定
3級合格
(2月26日)
高橋 海人 203

学が意欲

日本の高校生 学習受け身

「予習・復習よくする」12%どまり